

授業要項(令和6年度分)

1 年 生

作 業 療 法 学 科

授業科目名		心理学		(フリガナ) 担当教官名		コ バヤシ リョウ スケ 小 林 亮 輔		
開講学期		後期						
対象学科 及び学年		理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要		この授業では、心理を「感情」「思考」「行動」の集合と定義し、この観点から、自己または他者についての理解を深める。また、提出課題となるワークシートや授業内でのグループ活動を通して、学んだ心理学の知識や技術を日常生活において役立てられるようにする。						
到達目標		心理学に関する知識を得るとともに、それらを自身の日常生活に活かせるようにすること。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	心理について							小林亮輔
2	感情について							小林亮輔
3	思考・行動について							小林亮輔
4	睡眠について							小林亮輔
5	人付き合いについて							小林亮輔
6	コミュニケーションについて							小林亮輔
7	ストレスマネジメントについて							小林亮輔
8	リラックスについて							小林亮輔
アクティブ ラーニング	授業の内容、特にコミュニケーションや協力、等を踏まえたグループ活動							
評価基準	提出物 40%、試験 60%							
教科書	特になし							
参考書	特になし							
実務経験に 関する記述	公立学校や大学、矯正施設等でのカウンセリング経験を持つ教員が、心理教育の視点から、実用的な知識や技術の教授を意図した実践的教育を行う。							

授業科目名	倫理学		(フリガナ) 担当教官名	タ ナカ カズ マ 田 中 一 馬			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	倫理に関する基本的な知識を得るとともに、自分の考えを根拠を示しつつ、適切に表明するために必要な技術を身に付けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理学上の基本的な立場の特徴について説明できる。</li> <li>・倫理的な問題に対する自らの考えを倫理的に明瞭に表明できる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	倫理学とは何か：道徳と倫理の違いについて						田中一馬
2	倫理学に考えるために：価値判断とヒュームの法則						田中一馬
3	倫理的な価値判断の根拠づけ：帰結主義と非帰結主義・功利主義について						田中一馬
4	倫理的に考えてみる（その1）：安楽死について						田中一馬
5	倫理的に考えてみる（その2）：人工妊娠中絶について						田中一馬
6	倫理的に考えてみる（その3）：出生前診断について						田中一馬
7	倫理的に考えてみる（その4）：肉食の是非について						田中一馬
8	まとめ						田中一馬
アクティブ ラーニング	毎回問いを発し、それに答えていただきます。その上で、答の内容に関する意見を求めます。						
評価基準	期末試験 60%、ワークシート 40%の割合です。 理由の立たない欠席は、一回につき5点減点します。						
教科書	特に指定しません。						
参考書	赤林 朗・児玉 聡『入門・倫理学』勁草書房、2018年初版 他、授業時に適宜紹介します。						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	文化人類学			(フリガナ) 担当教官名	糸原 保・松崎百合子・内田 咲子 鈴木 賢二・梅木 浩美・鹿野 咲子 内田美美佳			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	本科目は、鳥根県奥出雲町の文化、行政、商業、観光、地域医療など多角的視点から学び、奥出雲町の地域資源や地域課題の理解を深める。							
到達目標	奥出雲町という地域を多角的な視点で理解することで、奥出雲町の魅力や課題点など地域の理解を深めることができる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	奥出雲町の文化について考える						糸原 保	
2	奥出雲町の商業・観光について考える						奥出雲町役場	
3	奥出雲町の魅力について考える				町民の視点から①		松崎百合子	
4	奥出雲町の魅力について考える				町民の視点から②		内田咲子	
5	奥出雲町の地域医療について考える				病院の視点から		鈴木賢二	
6	奥出雲町の地域医療について考える				施設の視点から		梅木浩美	
7	奥出雲町の地域医療について考える				行政の視点から		鹿野咲子	
8	奥出雲町の良いところをまとめる						内田美美佳	
アクティブ ラーニング	授業で取り上げるテーマに関して、グループワークで意見交換等を実施する機会を設ける							
評価基準	課題 80%、授業への取り組み状況 20%							
教科書	必要に応じて資料を配布します。							
参考書	必要に応じて資料を配布します。							
実務経験に 関する記述								



授業科目名	コミュニケーション論		(フリガナ) 担当教官名		ヤマモト マリコ 山本 真理子			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	理学療法士・作業療法士の実践活動においては他者の考え方の理解や相手に自分の考えを分かりやすく伝えるなど、コミュニケーションは必須の能力となる。本科目では、対人関係構築の基礎となるコミュニケーション技術について、その理論を理解するとともに基本的技法を修得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的・非言語的コミュニケーションについて説明し、活用することができる。</li> <li>・コミュニケーション技法について、自己・他者理解の重要性について説明することができる。</li> <li>・コミュニケーション技法を活用して、他者の考え、思いを引き出すという考えを身につける。</li> <li>・コミュニケーション技法を活用して、自己の考えを相手に伝え理解してもらうという考えを身につける。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	本学科の目的、内容、到達目標についてオリエンテーションする。 理学療法士・作業療法士に必要なコミュニケーションについて説明する。						山本真理子	
2	コミュニケーションの目的と構成要素についてペアやグループで体験し、理解する。						山本真理子	
3	コミュニケーション技法（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）についてペアやグループで体験し、理解する。						山本真理子	
4	コミュニケーション技法（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）についてペアやグループで体験し、理解する。						山本真理子	
5	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解）について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。						山本真理子	
6	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解）について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。						山本真理子	
7	コミュニケーション技法（自己理解・他者理解）を理解した上での自己開示についてペアやグループで体験し、理解する。						山本真理子	
8	コミュニケーション技法を活用し、相手の思いをくみ取る体験をし、理解する。						山本真理子	
アクティブ ラーニング	理学療法士・作業療法士にとってのコミュニケーションの必要性、コミュニケーション技法について、学生同士でコミュニケーションを取りながら学修し、発表を行う。							
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%							
教科書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）							
参考書	適宜紹介する。							
実務経験に 関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験を持つ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。							

授業科目名	キャリアマネジメント論Ⅰ		(フリガナ) 担当教官名	ハシ 橋	ムラ 村	コウ 康	ジ 二	
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>キャリアマネジメントとは、個人の目標を設定し、達成するための戦略を立て、実行し修正することを繰り返すことで自己のキャリアを管理することである。</p> <p>キャリアの概念は大きく「職業キャリア」と「ライフキャリア」に区分することができるが、本講義では、特に職業を通じたキャリア形成に重点を置き、自分がどのような理学療法士・作業療法士を目指したいかについて講義と演習を通して検討し、キャリアマネジメントの方法について学び、これからのキャリア形成のための行動計画を考える。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的なキャリア開発を行っていくことの意義や重要性を説明できる。</li> <li>・自己分析を行い、目指す専門職との関係性について説明できる。</li> <li>・自己の職業キャリアについて目標を設定し、具体的なキャリアプランを立案できる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	<p>オリエンテーション 授業の目的と内容理解、到達目標の理解 キャリア形成の必要性 キャリアの理解 キャリアとは何か 内的キャリアと外的キャリア 自己の人生における内的キャリアと外的キャリアを考える</p>						橋村康二	
2	<p>自己分析と自己理解 自己分析とは ライフラインチャートでの自己分析 WILL と MUST と CAN の理解と自己分析 他者と情報共有を行うことで、自己開示を行うとともに他者理解を深める。</p>						橋村康二	
3～4	<p>仕事の理解とPT・OTの理解 仕事とは何か、考え理解を深める グループで、これまでの授業や新入生研修会での情報を統合し、理学療法士・作業療法士の仕事についてまとめる(内容、やりがい、責任など)。</p>						橋村康二	
5	<p>PT・OTの仕事の多様化 病院や施設以外での働き方を知る 時代変化と業務内容の多様化を知る 実際に病院や施設以外で働くPT・OTの話聞き、グループワークを行う。</p>						橋村康二	
6	<p>4年間の学習イメージ 4年間で何を学ぶのかを理解する 4年後の到達目標の立案と、それに向けた各学年での到達目標</p>						橋村康二	
7～8	<p>キャリアデザイン、キャリアプランの作成 個人で自己のキャリアデザインを作成し、それを達成するためのキャリアプランを作成する。</p>						橋村康二	
アクティブ ラーニング	<p>自己分析やキャリアデザインの作成、キャリアプランの作成について個人演習や他者とのディスカッションを行う。 理学療法士あるいは作業療法士の職業理解を深めるために、グループワークや情報共有のための発表、ディスカッションを行う。</p>							
評価基準	提出物：70%、授業の参加状況：30%にて評価し、100%中60%以上を単位認定する。							
教科書	適宜資料を配布する。							
参考書	リハビリテーション職種のキャリア・デザイン 大町かおり・高橋綾一(編著)、シービーアール							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	教育学		(フリガナ) 担当教官名		シオ ヅ ヒデ キ 塩 津 英 樹		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	本講義では、教育に関する理論と方法について体系的に学習することを通して、現代の教育について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的、理論、方法等について理解している。</li> <li>2. 現代社会における様々な課題を教育の視点から理解している。</li> <li>3. 「教育」という事象を手がかりにして、多面的な視野を獲得している。</li> </ol>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション - 教育学を学ぶ意味とは -						塩津英樹
2	教育の意義と本質 - 人間の成長と発達 -						塩津英樹
3	倫理と道徳 - 人間の行為と道徳 -						塩津英樹
4	福祉と人権 - 子供の権利を中心に -						塩津英樹
5	子どもの教育を支える基盤① - 家庭教育を中心に -						塩津英樹
6	子どもの教育を支える基盤② - 学校教育を中心に -						塩津英樹
7	共生社会の実現に向けて - 特別支援教育の理念とは -						塩津英樹
8	教育学のまとめ - 若者の社会参画と自己実現 -						塩津英樹
アクティブ ラーニング	双方向による授業を行うとともに、グループワークを取り入れた対話的な学びを実現する。						
評価基準	受講態度、期末試験等により総合的に評価する。						
教科書	特に指定はしない。講義時に資料を配布する。						
参考書	講義の中で、適宜紹介する。						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	情報処理		(フリガナ) 担当教官名		アサ 浅	ノ 野	ヤス 保	ヒロ 広
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	各アプリケーションを利用してデータの貼付け、リンクの設定 Excelの関数を用いて、用途別のワークシートを作成する。							
到達目標	ユビキタスネットワーク社会において安全に必要な情報を得、また日常のコミュニケーションにおいての良い面、悪い面を把握し、便利な道具として情報機器を操作する姿勢を持つ。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	セキュリティの現状と対策方法						浅野保広	
2	パソコンシステム環境の保全と修復（トラブルの実際検証）						浅野保広	
3	正しく伝わる文書・誤変換・文字入力時の注意点等						浅野保広	
4	正しく伝わる文書・文書の体裁を整える						浅野保広	
5	レポート・報告書作成・基本と常識・パワーポイント使用						浅野保広	
6	Excelを使っでのレポート・文書の作成方法						浅野保広	
7	Excel表計算・関数を使用したデータ管理						浅野保広	
8	Excelグラフ表計算を使用したレポート作成						浅野保広	
アクティブ ラーニング								
評価基準	受講姿勢・課題提出（70%）と出席日数（30%）により判断します							
教科書	必要に応じて資料を作成配布します							
参考書	必要に応じて資料を作成配布します							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	物理学		(フリガナ) 担当教官名		オ 尾	ザキ 崎	トオル 徹	
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	物理学は、宇宙と物質はどのようにしてできたか、物質はどのような法則に支配されて運動しているか、を明らかにしてきた。最初に力学ができ、それを基礎にした熱力学、光学、電磁気学、と量子力学などの現代物理学が、理工学や医学に広く応用されている。理学療法学と作業療法学の基礎も人体の運動を正確に表す力学であり、現代物理学を応用した最新の医療機器が両分野の発展を支えている。							
到達目標	理学療法学と作業療法学を習得して医療をおこなうために必要な物理学（主に力学）の考え方と使い方を学ぶ。その指針になるのが、運動の3法則、力のつり合い、力のモーメントのつり合い、圧力のつり合いである。それらを身に着けるために、講義を復習して、課題レポートを提出する。それが予習にもなる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	理学療法学と作業療法学を習得するための基礎となる物理学は、力学、熱力学、光学、電磁気学、と量子力学などの現代物理学であることを予め知る。また、それらの物理学を表す物理量が、国際単位系 (SI) の単位をもち、また有効数字をもつことを学ぶ。						尾崎 徹	
2	力学では運動の表し方を学ぶ。そのために必要な物理量は、方向と大きさを表すベクトル量と大きさだけを表すスカラー量である。ベクトル量として位置、速度、加速度と力を、スカラー量として質量、時間とエネルギーを学ぶ。それらを扱うために、ベクトルと三角関数を復習する。						尾崎 徹	
3	重力、弾性力、摩擦力などの力の正体を学ぶ。運動の3法則から出発して、ボールや人体はもちろん、天体の運動も表すことができる。それを、力のつり合いや落下運動、さらに身体測定への応用などの例をとおして学ぶ。						尾崎 徹	
4	力が物体に仕事をして力学的エネルギーが生じる。逆に、力学的エネルギーは仕事をする。力学的エネルギーの保存を利用して物体の運動を調べることができる。私たちは力学的エネルギーを変換して利用していることも学ぶ。						尾崎 徹	
5	大きさをもつ物体には重心があり、そこに全ての質量が集中して重力が作用すると考える。ここでは物体を質点の集まりとして、てこや人体などの重心の測定法を学ぶ。てこに作用する重力と力のモーメントによるつり合い、滑車に作用する力とトルクによるつり合いも学ぶ。						尾崎 徹	
6	熱力学では、圧力とは何か、温度とは何かを学ぶ。まず圧力のつり合いから、気圧と血圧の測定法を学ぶ。また、熱平衡状態を理解して、気温と体温の測定法を学ぶ。さらに、熱を含むエネルギーが保存することを理解する。						尾崎 徹	
7	波動の数学的な表現法と物理的な性質を、音波と電磁波を例にして学ぶ。とくに、音波と電磁波の伝わり方が異なることを理解して、それらが超音波やX線を用いた画像診断に活用されることを理解する。						尾崎 徹	
8	現代物理学の応用例を学ぶ。電流は電子の流れであり、電圧と電流と抵抗の間にオームの法則が成り立って、電子体温計が働く。光は電磁波であると同時に光子と呼ばれる粒子の流れであり、おかげで非接触温度測定ができる。光子は赤血球中の鉄原子と相互作用をして吸収される。それをパルスオキシメーターによって測定して血中酸素濃度を得る。						尾崎 徹	
アクティブ ラーニング	講義内容や演示した実験について質問を受ける。また、毎回出題される問題を解き、課題レポートとして提出する。							
評価基準	期末試験 70%, 課題レポート 30%, 合計 100% のうち 60% 以上を合格とする。							
教科書	講義と課題レポートの資料を配布する。							
参考書	図書室にある教科書2冊の内容を紹介するQRコード ・北野保行: 優しい物理学<第2版>, 学校法人仁多学園。 ・尾崎 徹: 基礎物理 WORKBOOK<第2版>, 東京教学社。						 	
実務経験に 関する記述	なし							

授業科目名	英語 -Reader-		(フリガナ) 担当教官名		ホワイト マシュー ベネット White Matthew Bennett			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	Self-improvement and confidence in reading and speaking English. Using English for health care and social purposes.							
到達目標	Achieving greater competence in English language as a tool for communication.							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	Meeting people + self-introduction ; addresses and personal info						White Matthew Bennett	
2	Explaining the location of objects in a room ; parts of a house						White Matthew Bennett	
3	Explaining the location of people and places.						White Matthew Bennett	
4	Describing everyday activities ; parts of the face						White Matthew Bennett	
5	Describing the location and activities of people.						White Matthew Bennett	
6	Talking about everyday activities using possessive adjectives						White Matthew Bennett	
7	Reading for content ; practical vocabulary						White Matthew Bennett	
8	Describing people and things using possessive nouns						White Matthew Bennett	
9	Describing people using adjectives ; parts of the human body						White Matthew Bennett	
10	Describing activities and events ; family members						White Matthew Bennett	
11	Talking about family members						White Matthew Bennett	
12	Locating places in a city ; asking for directions						White Matthew Bennett	
13	Describing buildings ; asking about quantities						White Matthew Bennett	
14	Naming and describing clothing ; plural nouns						White Matthew Bennett	
15	Review of course contents						White Matthew Bennett	
アクティブ ラーニング	Pair and group conversation activities. Problem solving activities in groups.							
評価基準	Class participation + Attendance ; Homework Completion ; Regular Quizzes							
教科書	Side by Side Level 1 Extra : Student Book + eText 1, Workbook 1 with CD Steven J.Molinsky + Bill Bliss. Pearson/Longman,publishers.							
参考書	English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic)							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	英語 -Speech-		(フリガナ) 担当教官名		ホワイト マシュー ベネット White Matthew Bennett			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	Self-improvement and confidence in reading and speaking English. Using English for health care and social purposes.							
到達目標	Achieving greater competence in English language as a tool for communication.							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	Describing daily activities ; common questions						White Matthew Bennett	
2	Countries, languages and nationalities						White Matthew Bennett	
3	Talking about occupations; reading about daily activities						White Matthew Bennett	
4	Talking about interests and habits ; review of nationalities						White Matthew Bennett	
5	Asking questions about interests and habits ; Yes/No questions						White Matthew Bennett	
6	Describing the frequency of activities and habits						White Matthew Bennett	
7	Asking about the frequency of activities and habits ; describing people						White Matthew Bennett	
8	Describing feelings and emotions ; asking "why" questions						White Matthew Bennett	
9	Giving reasons for actions ; Organs of the human body						White Matthew Bennett	
10	Expressing ability ; asking about ability/obligations						White Matthew Bennett	
11	Inviting; accepting and refusing invitations						White Matthew Bennett	
12	Describing future plans and intentions						White Matthew Bennett	
13	Telling time; describing and asking about "when"						White Matthew Bennett	
14	Describing illnesses and causes ; referring to the past						White Matthew Bennett	
15	Review of course contents						White Matthew Bennett	
アクティブ ラーニング	Pair and group conversation activities. Problem solving activities in groups.							
評価基準	Class participation + Attendance ; Homework Completion ; Regular Quizzes							
教科書	Side by Side Level 1 Extra : Student Book + eText 1, Workbook 1 with CD Steven J.Molinsky + Bill Bliss. Pearson/Longman, publishers.							
参考書	English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic)							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	保健体育－講義－		(フリガナ) 担当教官名		ツチヤ 土屋 淳		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	テーマに沿って情報を収集し、それを読み込んだうえで、自分の考えと結び付けて発展させ、発見したこと学んだことをまとめる。						
到達目標	調べた内容を読み手にわかりやすいようにまとめて発表する。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション、テーマの決定						土屋 淳
2	マンダラートの作成、小カードの作成						土屋 淳
3	小カードの作成、アウトラインシートの作成						土屋 淳
4	小カード、アウトラインカードを基にレポート作成						土屋 淳
5	小カード、アウトラインカードを基にレポート作成						土屋 淳
6	小カード、アウトラインカードを基にレポート作成						土屋 淳
7	発表用レジュメ作成						土屋 淳
8	グループ発表、全体発表会						土屋 淳
アクティブ ラーニング							
評価基準	レポート 70%、発表会 20%、出席・態度 10% 合計 100% とし 60% 以上を合格とする。						
教科書	なし						
参考書	適宜配布する						
実務経験に 関する記述							



授業科目名	保健体育－実技－		(フリガナ) 担当教官名		ツチ 土	ヤ 屋	ジュン 淳	
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実技	必修・選択 の別	必修	
科目概要	ライフスタイルの変化に応じたスポーツのかかわりを通じて、健康の保持・増進に関する知識を習得し、実践できる能力を高める。							
到達目標	1.自分のライフステージの中で体力に応じた運動を実践することができる。 2.スポーツの実践を通じて人間関係を円滑にする。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	オリエンテーション（選択種目の決定、マナー・ルールの確認）						土屋 淳	
2～11	各種、個人・団体種目の実践（選択制）						土屋 淳	
12	オリエンテーション（選択種目の継続または変更、怪我の防止）						土屋 淳	
13～23	各種、個人・団体種目の実践（選択制）						土屋 淳	
アクティブ ラーニング								
評価基準	選択科目の実践状況（準備、技術練習、試合、片付け、ルール、マナー）70% スキルテスト 20%、出席状況 10%、合計 100%とし 60%以上を合格とする。							
教科書	なし							
参考書	なし							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	解剖学講義 I (筋骨格系)		(フリガナ) 担当教官名		ヨコ タ シゲ フミ 横 田 茂 文		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	PT・OTにとって重要な骨学とその連結である関節・靭帯および運動に関わる筋について詳細に学び、PT・OTとして医療に関わる基礎を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の構造や発生について総論的に理解するとともに個々の骨の名称を正確に知る。</li> <li>・骨の連結(広義の関節)の正常な構造と機能を知る。</li> <li>・人体の主要な骨格筋について、その構造を知り、作用を理解する。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	解剖学総論						横田茂文
2	頭蓋骨						横田茂文
3	脊柱、胸郭						横田茂文
4	上肢の骨(1)						横田茂文
5	上肢の骨(2)						横田茂文
6	上肢の連結						横田茂文
7	下肢の骨(1)						横田茂文
8	下肢の骨(2)						横田茂文
9	下肢の連結						横田茂文
10	頭頸部の筋						横田茂文
11	体幹の筋						横田茂文
12	上肢の筋(1)						横田茂文
13	上肢の筋(2)						横田茂文
14	下肢の筋(1)						横田茂文
15	下肢の筋(2)						横田茂文
アクティブ ラーニング							
評価基準	期末試験(100%)						
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学(第5版)(奈良 勲ら監修、医学書院)						
参考書	Qシリーズ 新解剖学(第6版)(加藤 征監修、日本医事新報社)						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	解剖学講義Ⅱ（神経系）		（フリガナ） 担当教官名		ヨコ タ シゲ フミ 横 田 茂 文			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	神経系の疾患や障害はPT・OTの対象となることが極めて多い。その病態を理解することや治療を施すために必要な脳・脊髄の立体的な構造と各部位の機能を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳および脊髄の構造を理解し、それらを機能と関連付けて説明できる。</li> <li>・脊髄神経、脳神経および自律神経系の基本構成を理解する。</li> <li>・感覚器系の構造を理解し、脳神経との関連を説明できる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	神経学総論、自律神経						横田茂文	
2	中枢神経（1）						横田茂文	
3	中枢神経（2）						横田茂文	
4	中枢神経（3）						横田茂文	
5	中枢神経（4）						横田茂文	
6	中枢神経（5）						横田茂文	
7	中枢神経（6）						横田茂文	
8	中枢神経（7）						横田茂文	
9	脊髄神経（1）						横田茂文	
10	脊髄神経（2）						横田茂文	
11	脊髄神経（3）						横田茂文	
12	脳神経、感覚器（1）						横田茂文	
13	脳神経、感覚器（2）						横田茂文	
14	脳神経、感覚器（3）						横田茂文	
15	脳神経、感覚器（4）						横田茂文	
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験（100%）							
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第5版）（奈良 勲ら監修、医学書院）							
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	解剖学講義Ⅲ（内臓系）		（フリガナ） 担当教官名		ヨコ タ シゲ フミ 横 田 茂 文			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	循環器や消化器といった内臓の機能や機能を司る構造とその位置を学び、PT・OTに必要な知識を習得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓の構造と全身の血管系の分布および門脈系と胎生期の循環系を理解する。</li> <li>・消化、ガス交換および発声に関わる構造を説明できる。</li> <li>・性別による生殖器の構造の違いを理解する。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	循環器系 (1)						横田茂文	
2	循環器系 (2)						横田茂文	
3	消化器系 (1)						横田茂文	
4	消化器系 (2)						横田茂文	
5	呼吸器						横田茂文	
6	泌尿器						横田茂文	
7	生殖器						横田茂文	
8	内分泌器						横田茂文	
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験（100%）							
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第5版）（奈良 勲ら監修、医学書院）							
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	生理学講義 I (動物生理)		(フリガナ) 担当教官名		ハシモトミチオ・スズキテツ哲			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>人体の運動機能とその調節について学び、解剖学などの知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解することを目的とする。講義は1.組織・細胞の基礎、2.神経系の生理学的機能、3.筋系の生理学的機能、4.神経-筋機能、5.骨系の生理学的機能、6.感覚系の生理学的機能で構成される。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の体液組成とホメオスタシスについて説明できる。</li> <li>・神経の働きや、反射、自律神経等についてそのメカニズムを説明できる。</li> <li>・筋収縮とその神経メカニズムについて説明できる。</li> <li>・骨の機能と代謝についてそのメカニズムを説明できる。</li> <li>・体性感覚や視覚、聴覚の生理学的メカニズムを説明できる。</li> </ul>							
回数	授業内容						担当	
1	生理学の概要、細胞の構造と機能						橋本道男	
2	人体の体液組成とホメオスタシス						橋本道男	
3	組織・細胞の基礎						鈴木 哲	
4	神経系の役割と生理的機能						鈴木 哲	
5	筋収縮機序の生理的メカニズム						鈴木 哲	
6	反射のメカニズム						鈴木 哲	
7	自律神経の調整メカニズム						鈴木 哲	
8	脳神経の働き						鈴木 哲	
9	体性感覚その1 (触覚、温痛)						鈴木 哲	
10	体性感覚その2 (関節覚、振動感)						鈴木 哲	
11	特殊感覚の生理的メカニズム						鈴木 哲	
12	特殊感覚の生理的メカニズム						鈴木 哲	
13	骨系の役割と生理学的機能						鈴木 哲	
14	骨吸収と骨形成のメカニズム						鈴木 哲	
15	授業全体のまとめ						鈴木 哲	
アクティブ ラーニング								
評価基準	<p>期末試験 60%、出席日数・授業態度 20%、レポート提出 20%  ※期末試験は1回行い、60点以上を合格とする。60点未満の場合再試験を受験することができる。  ※期末試験の得点、出席日数・授業態度の得点、レポート提出得点の合計が総得点(100点)の60%以上を単位認定とする。</p>							
教科書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 医学書院							
参考書	標準生理学 第8版 医学書院							
実務経験に 関する記述								

授業科目名	生理学講義Ⅱ（植物生理）		（フリガナ） 担当教官名		ハシモトミチオ 橋本道男			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>正常な生体機能を維持するための、血液機能、免疫機能、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、腎機能、体温調節・エネルギー代謝機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学習する。それにより生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムかを考える。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液の成分と機能について説明できる。</li> <li>・免疫機能について説明できる。</li> <li>・呼吸に関する肺活量、血液ガス、酸素飽和度、酸塩基平衡について説明できる。</li> <li>・心臓の収縮メカニズムとそれに伴う血管の変化について説明できる。</li> <li>・血圧・脈拍・心拍数が変化するメカニズムを説明できる。</li> <li>・心臓における刺激伝導系のメカニズムと心電図を説明できる。</li> <li>・消化吸収のメカニズムについて説明できる。</li> <li>・筋収縮とエネルギー代謝の関連性について説明ができる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	血液の成分と機能						橋本道男	
2	免疫の仕組み						橋本道男	
3	循環の仕組み、心臓収縮における刺激伝導系の役割と心周期について						橋本道男	
4	心臓機能調節のメカニズム						橋本道男	
5	血管機能評価とその調節系について、特殊循環について						橋本道男	
6	呼吸における肺・気管支の生理的メカニズム						橋本道男	
7	呼吸調節における生理学的メカニズム						橋本道男	
8	呼吸機能と肺機能評価との関連性について						橋本道男	
9	消化における物理・化学的機能の種類と役割について						橋本道男	
10	消化における各臓器の相互関係とメカニズム						橋本道男	
11	排便における各臓器の相互作用と生理的メカニズム						橋本道男	
12	尿の生成に関与する腎臓のメカニズム						橋本道男	
13	排尿調節・酸塩基平衡について、排尿反射のメカニズム						橋本道男	
14	体温調節について						橋本道男	
15	筋収縮とエネルギー代謝、授業全体のまとめ						橋本道男	
アクティブ ラーニング								
評価基準	<p>期末試験 60%、出席日数・授業態度 20%、レポート提出 20%  ※期末試験は2回行い、得点の平均を期末試験の得点とする。それぞれ試験において60点以上を合格とし、60点未満の場合再試験を受験することができる。  ※期末試験の得点、出席日数・授業態度の得点、レポート提出得点の合計が総得点（100点）の60%以上を単位認定とする。</p>							
教科書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 医学書院							
参考書	標準生理学 第8版 医学書院							
実務経験に関する記述								

授業科目名	運動学－講義－	(フリガナ)	ヤマサキケンジ				
開講学期	前期	担当教官名	山崎健治				
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要である。本科目は、人間の身体運動に関する基本的な知識を習得することを目的とする。講義は主に、運動学に必要な力学、運動器の構造と機能一般、上肢帯と上肢の運動、下肢帯と下肢の運動、脊柱・体幹の運動、姿勢、歩行に関して学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動力学の基礎的事項（力、モーメント、身体のでこ等）について理解し、説明することができる。</li> <li>・運動に関わる専門用語（運動面、運動方向、運動軸、肢位、姿勢）を理解し、説明することができる。</li> <li>・上肢の構造と運動機能について理解し、説明することができる。</li> <li>・下肢の構造と運動機能について理解し、説明することができる。</li> <li>・体幹の構造と運動機能について理解し、説明することができる。</li> <li>・ヒトのアライメントと重心位置について理解し、説明することができる。</li> <li>・姿勢保持、歩行の運動学を理解し、適切に説明することができる。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	運動学の基礎（力、モーメント、身体のでこ等）						山崎健治
2	運動学の基礎（運動面、関節運動と面・軸、肢位・姿勢、収縮様式）						山崎健治
3	上肢の構造と運動機能（上肢帯、肩関節）						山崎健治
4	上肢の構造と運動機能（肘関節、手関節、前腕）						山崎健治
5	下肢の構造と運動機能（骨盤帯、股関節）						山崎健治
6	下肢の構造と運動機能（膝関節、足関節）						山崎健治
7	体幹の機能と構造						山崎健治
8	脊柱の構造と運動機能（頸椎、胸椎）						山崎健治
9	脊柱の構造と運動機能（腰椎、仙椎）						山崎健治
10	バランスの戦略						山崎健治
11	姿勢アライメントと重心						山崎健治
12	歩行の基礎（歩行周期、歩行時の重心移動と角度変化）						山崎健治
13	歩行の基礎（床反力、筋のモーメント）						山崎健治
14	小児と老人の歩行の特徴						山崎健治
15	授業の振り返り						山崎健治
アクティブ ラーニング	特記事項なし。						
評価基準	期末試験 80%、出席日数・授業態度 20%						
教科書	運動学（15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト）第2版 中山書店 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版						
参考書	「基礎運動学 第6版補訂」（医歯薬出版）						
実務経験に 関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、運動学の基礎を教授する。						

授業科目名	運動学-実習-		(フリガナ) 担当教官名	ヤマサキケンジ 山崎健治			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	運動学講義で習得した知識を基盤に、体表からの視診・触診、姿勢保持、基本的動作の観察と分析を行い、基本的動作の特徴や仕組みについて学ぶ。さらに、この実習を通して、運動学的計測手法（筋電図、三次元動作解析装置）について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頸部、体幹、上肢、下肢を構成する骨、筋を体表から視診・触診することができる。</li> <li>・基本的動作を観察し、相、筋活動、重心移動、外的モーメント、内的モーメントを分析し、説明することができる。</li> <li>・基本的な筋電図の計測方法を理解し、得られたデータを動作の分析に活用できる。</li> <li>・基本的な三次元動作解析装置の計測方法を理解し、得られたデータを動作の分析に活用できる。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	骨の解剖的位置の理解と視診・触診実技						山崎健治
2							
3	筋の解剖的位置の理解と視診・触診実技						山崎健治
4							
5	頸部、体幹の関節運動と筋作用						山崎健治
6							
7	上肢、下肢の関節運動と筋作用						山崎健治
8							
9	姿勢保持のバイオメカニクス 姿勢の観察と運動学的要素の分析						山崎健治
10							
11	寝返り動作のバイオメカニクス 寝返り動作の観察と運動学的要素の分析						山崎健治
12							
13	起き上がり動作のバイオメカニクス 起き上がり動作の観察と運動学的要素の分析						山崎健治
14							
15	立ち上がり動作のバイオメカニクス 立ち上がり動作の観察と運動学的要素の分析						山崎健治
16							
17							
18	正常歩行動作のバイオメカニクス 歩行動作の観察と運動学的要素の分析 小児、成人、老人における各要素の変化						山崎健治
19							
20							
21	観察・分析を行った姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・立ち上がり動作・歩行をグループでまとめる。発表準備						山崎健治
22							
23	各動作の観察・分析結果をグループで発表する。						山崎健治
アクティブ ラーニング	1組3人～4人のグループを形成し、グループで課題を進める。 最終授業では、反転授業を用い、準備と授業の実践を通して内容の理解を深める。						
評価基準	発表：30% 成果物：30% 取り組み：30% 出席日数・授業態度：10% ※成果物はポートフォリオ形式を取り、科目を通して習熟度を評価する。						
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 メジカルビュー 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 メジカルビュー 運動学 (15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト) 第2版 中山書店 動作分析 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 第1版 メジカルビュー						
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 第3版 医歯薬出版						
実務経験に 関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、 外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、演習を通じて人体の構造と身体運動（基本的動作）の関係を教授する。						



授業科目名	人間発達学		(フリガナ)	伊 藤 晃 崇			
開講学期	後期		担当教官名				
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要							
到達目標							
回数	授 業 内 容						担 当
1							伊藤晃崇
2							伊藤晃崇
3							伊藤晃崇
4							伊藤晃崇
5							伊藤晃崇
6							伊藤晃崇
7							伊藤晃崇
8							伊藤晃崇
アクティブ ラーニング							
評価基準							
教科書							
参考書							
実務経験に 関する記述							

授業科目名	病理学概論		(フリガナ) 担当教官名	ナ 並	カ 河	ト オ ル 徹		
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授 業 形 態	講 義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	病気の成り立ちを、正常な組織の形、機能を踏まえて理解する。							
到達目標	主要な病態とその成り立ちについて説明できる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	人体の構造（復習）、細胞障害1						並河 徹	
2	細胞傷害2，創傷治癒						並河 徹	
3	循環障害と循環器疾患1 梗塞、うっ血、出血						並河 徹	
4	循環障害と循環器疾患2 浮腫、ショック						並河 徹	
5	炎症						並河 徹	
6	免疫						並河 徹	
7	腫瘍						並河 徹	
8	病態各論 呼吸器、神経、遺伝性疾患						並河 徹	
アクティブ ラーニング	毎時間 小テスト施行							
評価基準	筆記試験の成績での評価							
教科書	「病理学」疾病の成り立ちと回復の促進、医学書院出版、第6版							
参考書	担当教員が作成した資料を配布する。							
実務経験に 関する記述	大学医学部で病理学の講義を担当。病理診療等担当。							

授業科目名	リハビリテーション概論	(フリガナ) 担当教官名	ハシムラコウジ 橋村康二					
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	リハビリテーションは、保険医療福祉分野に求められ、活動範囲は医療提供施設や福祉施設に限らず、地域まで多岐にわたる。この科目では、リハビリテーションの理念や歴史、様々な現場での理学・作業療法士の役割や業務内容について学ぶ。さらに関連職種も理解し多職種連携についても学ぶ。加えて、これらの学びを通じ理学・作業療法士としての専門職意識を高めることも重要な目的とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人、リハ専門職としてふさわしい倫理観、思考、態度を身に着けることができる。</li> <li>・将来関わる対象者を敬う心を身に着けることができる。</li> <li>・ノーマライゼーション、リハビリテーションの概念を説明できる。</li> <li>・関連諸制度について理解し、説明できる。</li> <li>・PT・OTの業務について、対象、職域、内容の概要を説明できる。</li> <li>・PT・OT 関連職種の業務役割や内容を説明でき、チーム連携の概念を説明できる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	オリエンテーション リハビリテーションの概念理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの歴史と概念</li> <li>・ノーマライゼーション、IL 運動</li> </ul> リハ専門職の思考と態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいを持つ者の理解</li> <li>・医の倫理</li> </ul>						橋村康二	
2～3	事例で考えるリハビリテーション（演習） <ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期の事例</li> <li>・生活期の事例</li> </ul>						橋村康二	
4～5	PT、OTの対象と職域 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病期に応じた対象と職域</li> <li>・保険制度に応じた対象と職域</li> </ul> リハビリテーションの種類に応じた対象と職域（医学的、職業的、教育的、社会的）						橋村康二	
6	リハビリテーションに関わる関連職種の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ専門職：PT、OT、ST</li> <li>・関連職種：医師、看護師、介護支援専門員等</li> </ul>						橋村康二	
7～8	PT・OTの仕事の実際 実際現場で活躍するPT・OTの方の講話						橋村康二 橋村康二	
9～12	施設見学 施設に赴き、実際にPT・OTの業務を見学する						橋村康二	
13	施設見学の共有 情報共有を行う						橋村康二	
14～15	関連法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士及び作業療法士違法の理解</li> <li>・個人情報保護法</li> <li>・独占資格</li> <li>・国家試験の理解</li> </ul> 振り返りとまとめ						橋村康二	
アクティブ ラーニング	事例検討などのグループディスカッションを通じて知識を深める							
評価基準	出席状況、授業態度 10%、提出された成果物の内容 60%、期末試験 30%で判定し 60%以上を単位認定する 全体評価が 60%の者あるいは期末試験において 60 点未満の者は再試験を行う。							
教科書	はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは（川手信行、南江堂）							
参考書								
実務経験に 関する記述								

授業科目名	社会福祉論		(フリガナ) 担当教官名	ハマ 浜	ムラ 村	オサム 修		
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	①社会福祉の概念を理解し、人がより良い生活を実現するために社会福祉が果たす役割について学ぶ ②社会保障制度が人々の生活にどのように関係しているのかについて学ぶ。							
到達目標	社会福祉が人々の生活にどのような役割を果たしているのかについて理解できる。							
回数	授業内容						担当	
1	社会福祉の概要・医療と福祉						浜村 修	
2	社会資源としての年金						浜村 修	
3	介護保険の実践						浜村 修	
4	労働者の福祉施策						浜村 修	
5	生活保護の実践						浜村 修	
6	児童福祉						浜村 修	
7	障がい者福祉						浜村 修	
8	福祉における社会保障の課題と展望・まとめ						浜村 修	
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験結果及び出席状況を勘案し、評価を行う。							
教科書	「最新・社会福祉士養成講座 7 社会保障 第1版」中央法規出版、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集							
参考書	必要に応じてパンフレットや資料配布							
実務経験に 関する記述	地方自治体職員として25年間、社会保障や税制度に携わってきた講師が、福祉における社会保障制度の実際の運用や課題などを例示し実践的な教育を行う。							

授業科目名	公衆衛生学		(フリガナ) 担当教官名	タニ グチ カオリ 谷 口 かおり				
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	人々の健康を支える医療、介護政策をはじめとする公衆衛生学の基礎知識を身につける。さらに授業での学習内容を踏まえ、地域住民のニーズやコミュニティの医療・介護資源を調査し、地域の健康課題を明らかにする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生学の基本的な知識を習得している</li> <li>2. 地域に参入し、人々と円滑なコミュニケーションがとれる</li> <li>3. 公衆衛生学の知識を踏まえ、地域が抱える健康問題について議論できる</li> </ol>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	公衆衛生学概論						谷口かおり	
2	保健統計・疫学						谷口かおり	
3	疾病予防と健康増進						谷口かおり	
4	高齢者保健と地域包括ケアシステム						谷口かおり	
5	地域診断実習						谷口かおり	
6							谷口かおり	
7	実習報告会						谷口かおり	
8							谷口かおり	
アクティブ ラーニング	地域に暮らす人々の健康を守るために、医療・介護・福祉のあらゆる側面から住民のニーズと地域の資源を調査、診断する。地域全体が抱える住民の健康課題についてグループワークを実施する。							
評価基準	授業への積極的な参加や態度:20%, 定期試験:60%, 実習報告書:10%, 報告会での発表・ワークシート:10%							
教科書	シンプル公衆衛生学 [2024] 南江堂							
参考書	国民衛生の動向 [2023/2024] 厚生労働統計協会							
実務経験に 関する記述	大学病院で急性期医療に16年、診療所での在宅医療・慢性期医療に3年の臨床経験を持つ教員が、地域に暮らす住民の健康問題の抽出や、行政との関わりなど実践的な教育を行う。							

授業科目名	チーム医療論		(フリガナ) 担当教官名	ヤマモト マリコ・マツモト ケンジ 山本 真理子・松本 賢治				
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	わが国では人口の高齢化、慢性疾患の増悪などを背景に複雑な問題を抱える患者の全人的ケア、継続的ケアを単一の医療専門職のみで行うことは不可能となっており、各専門職が連携・協働する力は医療専門職として必須であり、患者中心の効率的な医療を提供するため多職種連携のチーム医療が推奨されている。そこで本科目では、チーム医療について、チームの成り立ちから阻害因子等、発展させるための機能について学習する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの成り立ち、組織づくりの手法について理解することができる。</li> <li>・チームの阻害する因子とありかたについて理解することができる。</li> <li>・医療チームの機能と役割について理解することができる。</li> </ul>							
回数	授業内容						担当	
1	本科目の目的、内容、到達目標をオリエンテーションする。 チームの成り立ち、組織づくりの手法について説明する。						山本真理子	
2	チームの成り立ち、組織づくりの手法について説明する。						山本真理子	
3	チームの阻害因子とありかたについて説明する。						山本真理子	
4	チームの成り立ち、組織づくりの手法、チームの阻害因子について、ペアやグループ毎に体験を交えまとめ、理解する。						山本真理子	
5	模擬カンファレンス等を用いて、チーム医療の実践の一部を見学しながら理解を深める。加えて、各職種の仕事を理解する。						松本 賢治	
6	模擬カンファレンス等を用いて、チーム医療の実践の一部を見学しながら理解を深める。加えて、各職種の仕事を理解する。						松本 賢治	
7	見学したチーム医療の実践の一部と演習を活用し、チーム医療の一員となる自らの発言及び行動について阻害因子、ありかたの視点でグループでまとめ、理解する。						山本真理子	
8	チーム医療の一員となる自らの発言及び行動について阻害因子、ありかたの視点で、グループでまとめたものを、発表し共有することで、理解を深める。						山本真理子	
アクティブ ラーニング	チーム医療について、見学したチーム医療の実践の一部と演習を活用して、チームの機能と役割、及び、チーム医療の一員となる自らの発言及び行動について阻害因子、ありかたの視点で、グループ毎にディスカッションし、まとめる。							
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%							
教科書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）							
参考書	水本清久ほか（編著）；『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』（医歯薬出版） 京極真（著）；『信念対立解明アプローチ入門－チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』（中央法規出版）							
実務経験に 関する記述	急性期・亜急性期を担う病院で10年半の臨床経験を持ち、病棟配属にて多職種連携チームの発足に携わった教員がメンバーシップの視点から多職種連携によるチーム医療について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名	作業療法概論		(フリガナ) 担当教官名		クモ ダ コウ ジ ヨシ ダ シュン スケ 雲 田 耕 治 ・ 吉 田 俊 輔			
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>本科目では、作業療法の学問的な基礎を学習することを目的とする。科目を通して、「作業」や「作業療法」を自身のことばで説明可能となるよう展開していく。授業内容には、作業療法の歴史、職域、倫理、作業療法理論などが含まれる。また、国際生活機能分類を用いた演習なども取り入れる。これにより、作業療法は人の健康と幸福の促進するために、人-作業-環境というダイナミックな視点を持つ職種であることの理解を深める。</p>							
到達目標	<p>1. 作業療法と作業について、その成り立ちを含め、説明することが出来る。 2. ICF の概念を説明できる。 3. 作業療法の代表的な理論 (人間作業モデルやカナダモデルなど) の概要を説明できる。</p>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	オリエンテーション「作業療法概論」の目的と本科目の位置づけ (他: グループワークの注意点) 作業と作業療法の概要 (各病期、領域) を説明する						雲田耕治	
2	「理解した作業と作業療法について自分たちの言葉でまとめて発表する						雲田耕治	
3	世界の作業療法、日本の作業療法 (歴史的変遷) を概観する						雲田耕治	
4	作業療法に関する法律						雲田耕治	
5	作業療法を実践する際に必要となる倫理観、道徳観、社会技能について説明する						雲田耕治	
6	作業療法を実践する際に起こりうるシチュエーションに対し倫理、道徳、社会技能の実践を行う						雲田耕治	
7	生活行為向上マネジメントの概要を説明する						雲田耕治	
8	国際生活機能分類 (ICF)						吉田俊輔	
9	国際生活機能分類 (ICF)						吉田俊輔	
10	作業療法の実践過程						吉田俊輔	
11	作業療法の目標設定						吉田俊輔	
12	人間作業モデル						吉田俊輔	
13	カナダモデル						吉田俊輔	
14	作業に根ざした実践 2.0 (OBP2.0)						吉田俊輔	
15	根拠に基づく医療 (EBM) における作業療法						吉田俊輔	
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。</li> <li>・担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配布する、もしくは学生が調べていく。学生は資料を見ながら課題について、ディスカッションを行い、発表をする。</li> </ul>							
評価基準	レポート 50%、授業態度 (コミュニケーションスキル、ワークへの取り組み姿勢) 50%							
教科書	世界保健機関 (WHO): 国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 -、中央法規石川朗ほか: 作業療法概論 <15 レクチャーシリーズ作業療法テキスト>、中山書店							
参考書	吉川ひろみ: 「作業」ってなんだろう 作業科学入門、第2版 医歯薬出版株式会社 小川真寛、藤本一博、京極 真: 作業療法の理論の教科書、メジカルビュー社							
実務経験に関する記述	病院や地域で臨床経験を積んできた教員が、作業療法学の学習を進める上での基礎となる知識について講義を行う。							

授業科目名	国際リハビリテーション論		(フリガナ) 担当教官名	ヨウ 幸	フク 福	ヒデ 秀	カズ 和		
開講学期	後期								
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修		
科目概要	リハビリテーションの歴史、健康問題、国際的な社会・医療状況、世界のリハビリテーション医療状況について学びます。								
到達目標	国際的な観点から異文化圏における医療について理解を深めます。国際リハビリテーション論の観点から海外で活動している先駆者から学びます。国際看護学からの学びを通して、理学療法と作業療法の現場のあり方を学びます。								
回数	授業内容							担当	
1	国際保険医療学とは							幸福秀和	
2	日本と海外のリハビリテーションの歴史について。グローバルゼーションとは							幸福秀和	
3	JICA（国際協力機構）・民間の活動における海外支援について学びます							幸福秀和	
4	国際協力のあり方を先人の足跡を辿ることで海外の状況を理解します							幸福秀和	
5	アジアにおける活動について、具体的な活動の意味を広い視野で捉える。							幸福秀和	
6	ウルグアイ・ボリビア・ベトナムのリハビリテーション支援活動の紹介							幸福秀和	
7	看護領域が果たしてきた海外支援活動を視聴覚機器（映像）で紹介							幸福秀和	
8	映像に映し出された課題と実践における展望							幸福秀和	
アクティブ ラーニング	基本的な医療の知識の整理。リハビリテーションにおけるテクニカルタームを復習して下さい。前期に学んだ基礎医学、専門知識を整理して下さい。								
評価基準	レポート20%・定期試験80% 3分の1以上欠席すると評価しません。								
教科書	特に指定しません。プリントを配布します。視聴覚機器を使用します。								
参考書	特に指定しません。プリントを配布します。								
実務経験に 関する記述	ボリビア日系人病院、ベトナム、ベンチエ省障害児施設等、海外においてリハビリテーション支援に従事した教員が、具体的な事例を提示し、実践的教育を紹介します。								



授業科目名	研究方法論 I		(フリガナ) 担当教官名		ハナ	オカ	ヒデ	アキ	
開講学期	後期				花	岡	秀	明	
対象学科 及び学年	作業療法学科	1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	研究は、作業療法士の社会貢献の一旦として重要な活動である。本科目では、研究の意義を理解するとともに、研究を行う上で必要な基礎知識について学ぶ。								
到達目標	①研究の意義を述べることができる。 ②研究を行う過程について、説明することができる。 ③量的研究と質的研究について、説明することができる。 ④研究デザインや測定した変数の種類に応じた代表的統計手法を説明できる。 ⑤研究を行う上で必要となる基本的な倫理的配慮について説明できる。 ⑥研究計画書の内容について説明できる。								
回数	授業内容								担当
1	オリエンテーション 研究の実践例を通して、研究とは何か、作業療法における研究の必要性や意義を考える。								花岡
2	研究の進め方 研究の流れを理解し、研究計画書作成の基礎知識を学ぶ。 倫理的配慮の必要性についても、理解する。								花岡
3	文献レビュー 漠然とした問題意識から研究疑問を明らかにし、仮設定を行う必要性を学ぶ。 これらのために文献レビューが必要となることを理解し、文献レビューを体験する。								花岡
4	研究の種類とデザイン 量的研究と質的研究の違い、主な研究デザインを学ぶ。								花岡
5	代表的な統計学手法 尺度水準の種類に加えて、尺度水準と研究デザインに応じた統計手法を学ぶ。								花岡
6	グループ演習① 仮の研究疑問から仮説を設定し、研究計画を作成する。								花岡
7	グループ演習② グループ演習①で作成した研究計画に基づき、仮データを作成し、統計ソフトを用いて統計学的解析を行い、結果をまとめる。								花岡
8	発表 フィードバック まとめ								花岡
アクティブ ラーニング	演習を通じて、研究疑問から仮説を設定し、研究計画書の作成を模擬体験し、一連の過程について理解を深める。								
評価基準	授業への参加状況 20%、定期試験 50%、演習課題 30%の 100%で評価する。								
教科書	適宜資料を配布する								
参考書	山本澄子 他：すぐできる！リハビリテーション統計 [解析ソフト付] 改訂第2版、2019、南江堂。 柳井 久江：4Steps エクセル統計 (第5版)、2023、オーエムエス出版。								
実務経験に 関する記述									

授業科目名	評価法Ⅰ（身障）－Ⅰ	（フリガナ） 担当教官名		クモ 雲	ダ 田	コウ 耕	ジ 治	ニシコ ・錦	オリ 織	ケン 健	ジ 次
開講学期	後期										
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修				
科目概要	作業療法のすべてが評価から始まるとされており、患者の状況を把握する評価は作業療法士にとって極めて重要なものである。このような背景から、本科目では各種疾患を罹患した対象者に対し、適切な介入支援につなげることができるようにすることを旨とする。										
到達目標	①身体障害関連の評価の目的・意義を理解し、必要に応じて検査を選択することができる。 ②対象者に説明と同意を得た上で、安全に配慮しながら検査・測定が実施できる。 ③検査・測定から得られた情報を適切に記録し、説明することができる。										
回数	授 業 内 容										担 当
1～2	評価の基礎と進め方： 作業療法における評価の基本的構成について学び、評価の意義と目的を理解し、評価の過程について説明することができる。また、リハビリテーションにおける問題解決プロセスを学び、リハビリテーション評価を実施する上で、評価計画の立て方を説明することができる。										雲田・錦織
3～4	姿勢・形態測定・フィジカルアセスメント（総論）： ヒトの姿勢の特徴や姿勢評価の意義や観察のポイントを説明することができる。また、形態測定の意義・目的を説明することができる。										雲田・錦織
5～7	フィジカルアセスメント（血圧・意識・痛み・脈拍）、形態測定：四肢長・周径（実技）										雲田・錦織
8	反射概論（病的反射・深部腱反射）について説明を行う										雲田・錦織
9	反射実技（病的反射・深部腱反射）										雲田・錦織
10	関節可動域検査法（総論）について説明を行う										雲田・錦織
11～13	関節可動域検査法：手指・体幹・頸部（実技）										雲田・錦織
14～16	関節可動域検査法：上肢（実技）										雲田・錦織
17～19	関節可動域検査法：下肢（実技）										雲田・錦織
20～22	リフレクション（質問作りとディスカッション）										雲田・錦織
23	まとめ										雲田・錦織
アクティブ ラーニング	アクティブラーニングの内、「LTD」の手法を用い、実技内容について自己学習能力や思考力、チームワークを高め実技の実践を体験する学習方略を取る。										
評価基準	実技試験 60%、筆記試験 30%、出席日数や授業態度 10% 実技試験は、全3回実施する。また、各項目総計が60点以下は再試験とする。 1回目：形態測定・フィジカルアセスメント・反射 20% 2回目：関節可動域検査法（上肢・手指・頸部）20% 3回目：関節可動域検査法（下肢・体幹）20%										
教科書	潮見泰蔵他編；リハビリテーション基礎評価学 第2版、羊土社										
参考書	1. 生田宗博編集；作業療法学全書 改訂第3版第3巻作業療法評価学、協同医書出版 2. 中村隆一他著；基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版										
実務経験に 関する記述	急性期から生活期まで20年以上の臨床経験を持つ教員が担当する。										

授業科目名	日常生活活動		(フリガナ) 担当教官名		クモ タ コウ シ 雲 田 耕 治		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	日常生活活動（ADL）は人間が生存していくための最も基本的な活動である。基本動作の分析およびその介助方法をはじめ、作業療法士として専門的な視点で生活の分析を行う重要性を認識し、治療・援助方法の提案を行うための基本的な知識、技術を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ADL、IADL、QOL の定義を説明することができ、代表的な評価の実践が行える。</li> <li>・ 運動学の知識と関連を持ちながら、基本動作の介助が実施できる。</li> <li>・ セルフケア項目の動作特性およびその介助方法を理解することができる。</li> <li>・ 住環境における基本設定（手すり、通路幅等）を理解し、計測の実践が行える。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	日常生活活動概論（分類、意義、目的等の説明）						雲田耕治
2	日常生活活動概論評価（FIM・BI QOL 他） 各評価法の概要の説明と FIM・BI・FAI の実践						雲田耕治
3							
4							
5	基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行など）の概要説明						雲田耕治
6							
7	基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行など）の基本的な介助方法の 説明と実践						雲田耕治
8							
9	更衣・食事動作についてグループに分かれ工程分析・動作分析・必要な運動感覚 認知等の洗い出しを行う						雲田耕治
10							
11							
12	車椅子の種類と構造、介助方法について説明をし、実践を行う						雲田耕治
13							
14	住環境（基本設定、計測、家屋図作成）について説明をし、実践を行う						雲田耕治
15							
アクティブ ラーニング	アクティブラーニングの内、「LTD」の手法を用い、実技内容について自己学習能力や思考力、チームワークを高め実技の実践を体験する学習方略を取る。また、小テストを用いることで復習の機会を与える。						
評価基準	筆記試験 60% 実技・ADL 分析の習得度（詳しい評価について適宜説明） 30% 授業態度（授業への参加態度） 10%						
教科書	柴喜崇他編；ADL 第2版、羊土社 潮見泰蔵他編；リハビリテーション基礎評価学 第2版、羊土社 飛松好子編；安全な動作介助のてびき 第3版、医歯薬出版株式会社						
参考書	・酒井ひとみ編；作業療法全書 改訂第3版 第11巻 日常生活活動 協同医書出版社						
実務経験に 関する記述	急性期から生活期まで 20 年以上の臨床経験を持つ教員が担当する。						

授業科目名	生活マネジメント論		(フリガナ) 担当教官名		クモ	ダ	コウ	ジ	
開講学期	後期				雲	田	耕	治	
対象学科 及び学年	作業療法学科	1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>作業療法を実践する上で、「対象者が行いたい作業を見つけること」は重要である一方、対象者によって困難な場合が多く、作業療法士が面接によって作業を引き出す技術が求められる。この授業では面接に焦点を当て、作業の引き出し方について講義・演習を行う。また、面接で得られた「行いたい作業」について生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）を通して面接の重要性について学ぶことを目的としている。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 面接演習を通じヒトの作業には形態・機能・意味があることに気づくことができる。</li> <li>2. 面接時の作業の引き出し方について説明できる。</li> <li>3. MTDLP の概要を理解し、模擬事例を用いてまとめることができる。</li> </ol>								
回数	授 業 内 容								担 当
1	【オリエンテーション】 ・授業の目的・到達目標・授業の概要・グループ決め・学修の準備 ・MTDLP の概要について担当教員が説明する。								雲田耕治
2	小テスト 面接：生活行為聞き取りシートの作成（興味チェックリスト、COPM の概要説明と実践）								雲田耕治
3	面接：生活行為聞き取りシートの作成（興味チェックリスト、COPM の実践）								雲田耕治
4～5	小テスト アセスメント演習 アセスメントの概要説明と模擬症例を用いたシート作成								雲田耕治
6～7	プラン演習 プランの概要説明と模擬症例を用いたシート作成								雲田耕治
8	「生活行為向上プラン演習シート」「生活行為アセスメント演習シート」について、学生はグループごとに発表をする。担当教員は発表内容について評価する。								雲田耕治
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配布する、もしくは学生が調べていく。学生は資料を見ながら課題について、ディスカッションを行う。</li> </ul>								
評価基準	<p>授業態度 40%（態度 10%、ワークへの取り組み 20%）、小テスト 40%、発表 20%、出席状況 10%</p> <p>※学習意欲についてはポートフォリオの提出期日が厳守できているか、発表の際の質疑応答、出席状況にて評価する。</p>								
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界保健機関（WHO）：国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 - 中央法規</li> <li>・一般社団法人日本作業療法士協会編著：作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第 4 版</li> <li>・一般社団法人日本作業療法士協会編著：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第 2 版 医歯薬出版株式会社</li> </ul>								
参考書									
実務経験に関する記述	急性期から生活期まで 20 年以上の臨床経験を持つ教員が担当する。								

授業科目名	基礎作業学Ⅰ（理論）		（フリガナ） 担当教官名		ヨシダ ジュン スケ 吉 田 俊 輔		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目では、作業に関する基礎知識や作業を分析する方法について学習することを目的とする。作業療法の基礎学問である作業科学を中心に講義を行う。本科目で学習した内容を基礎作業学Ⅱ（技術）の演習に活用できるよう展開する。						
到達目標	1. 作業の意味・機能・形態について説明できる 2. 作業分析を一部実施できる						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション：本授業の目的と他の授業科目との関連について 作業学総論：「作業とは何か」についてのグループワーク、作業を取り扱ってきた歴史についての講義を行う						吉田俊輔
2	自分の作業を知る：作業日誌を用いた演習を実施する。事前課題、グループワーク、クラス全体での発表で構成する						吉田俊輔
3	作業の見方：作業日誌で記載した作業を列挙し、作業の特性を基に分類を行う。作業にはさまざまな見方（分類）があることを演習を通して学ぶ						吉田俊輔
4	作業科学：作業科学の位置づけ、作業的存在とは何かについて						吉田俊輔
5	作業科学：作業の意味・機能・形態について（作業的写真を用いた演習を行う）						吉田俊輔
6	作業分析：目的と方法について						吉田俊輔
7	作業分析：作業分析シートを用いた演習						吉田俊輔
8	作業分析：作業分析シートを用いた演習						吉田俊輔
アクティブ ラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、作業分析を一部体験し、説明する。担当教員は学生が作業分析を実施する各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。 ・グループワークの資料は教員が学生に配布する。						
評価基準	ポートフォリオ・レポート70%、授業態度（発表やディスカッションへの参加状況など）30%						
教科書	配布資料						
参考書	吉川ひろみ著：「作業」って何だろう．第2版．医歯薬出版株式会社． 長崎重信 監：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト作業学．第3版，メジカルビュー社，2021.						
実務経験に関する記述	約10年間、臨床にて作業に焦点を当てた実践を行ってきた教員が、作業に関する知識について講義を行う。						

授業科目名	基礎作業学Ⅱ（技術）		（フリガナ） 担当教官名		ヨシダ シュン スケ 吉 田 俊 輔		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、作業実習にて実施と作業分析を体験し、作業に関する知識と分析スキルを学習することを目的とする。作業分析後は、内容をまとめて発表も行う。教員のフィードバックや他者の分析内容との比較を通して、多角的な視点を身につけられるよう展開する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のサポートのもとで分析シートに沿った作業分析が実施できる</li> <li>2. AMPS の概要について説明できる</li> <li>3. 基礎作業学領域の各種道具の名称や用途について説明できる</li> </ol>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション：本授業の目的と他の授業科目との関連について 作業分析：基礎作業学Ⅰのおさらいを中心に行う						吉田俊輔
2	基礎作業学領域の作業：作業種目、各種道具などについて						吉田俊輔
3	作業実習の概要について						吉田俊輔
4	作業実習①：事前分析（調べ学習を行い、分析シートに沿って事前分析を行う）						吉田俊輔
5	作業実習①：実施と分析						吉田俊輔
6	作業実習①：実施と分析						吉田俊輔
7	作業実習①：分析結果の発表とまとめ						吉田俊輔
8	作業実習②：事前分析（調べ学習を行い、分析シートに沿って事前分析を行う）						吉田俊輔
9	作業実習②：実施と分析						吉田俊輔
10	作業実習②：実施と分析						吉田俊輔
11	作業実習②：分析の発表とまとめ						吉田俊輔
12	作業実習③：実施と分析						吉田俊輔
13	作業実習③：実施と分析、まとめ						吉田俊輔
14	AMPS を用いた作業遂行分析の概要						吉田俊輔
15	AMPS を用いた作業遂行分析を一部体験する（映像を用いた演習）						吉田俊輔
アクティブ ラーニング	教員のサポートのもと、作業分析を主体的に体験する。						
評価基準	ポートフォリオ・レポート 60%、授業態度（発表、道具の準備や片付け） 40%						
教科書	資料を適宜配布する。						
参考書	長崎重信 監：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト作業学 第3版、メジカルビュー社、2021。						
実務経験に 関する記述	約10年間、臨床にて作業に焦点を当てた実践を行ってきた教員が、作業に関する知識について講義を行う。						

授業科目名	総合演習 I		(フリガナ) 担当教官名		理学療法学科教員 作業療法学科教員		
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、理学療法・作業療法の基礎となる解剖学、運動学、生理学の知識を統合することを目的としている。その中でも、骨の解剖、関節の解剖と運動、筋の起始・停止・作用・支配神経、循環器の解剖生理、腎・泌尿器の解剖生理、呼吸器の解剖生理、内分泌の解剖生理、消化器・嚥下の解剖生理に焦点を当てる。加えて、アクティブラーニングを用いて各疾患の病態と症状の理解を図る。さらに、情報通信技術に関連する法律を学び、加えて、デジタル端末の基本的な操作方法を修得する。</p>						
到達目標	<p>1年次に学修すべく解剖学、運動学、生理学を復習し、その知識を用いて2年次に学ぶ、疾患学や理学療法評価学・作業療法評価学に応用していく基礎能力を身につけることができる。 デジタル端末の基本的な操作方法を修得し、プレゼン資料を作成することができる。</p>						
回数	授業内容						担当
1~4	オリエンテーション（授業の目的・到達目標・授業の概要・学修の準備について） 骨関節靭帯の解剖学・運動学						堀江貴文
5	筋の起始・停止・作用・神経支配						1年生担任
6~13	情報通信技術の活用						山崎・雲田
14~15	循環器の解剖生理						青木竜太郎
16	腎・泌尿器の解剖生理						青木竜太郎
17~18	呼吸器の解剖生理						鈴木 哲
19~20	消化器・嚥下の解剖生理						吉田俊輔
21	エネルギー代謝						雲田耕治
22	内分泌の解剖生理						青木竜太郎
23~30	アクティブラーニング 前期で学んだ知識を用いて疾患の理解を図る グループワークを中心に課題に取り組む						PT学科・ OT学科教員
アクティブラーニング	<p>アクティブラーニングでは、グループ学習を基本とする。疾患について病態と症状を解剖学・生理学・運動学の知識でつなげ関連図を作成する。課題を通じて、自己学習能力およびグループで協働する能力の育成を図る。 課題の詳細は、アクティブラーニングの初回講義に提示する。</p>						
評価基準	<p>試験 80%、課題 20%にて評価する。 ※骨関節靭帯、筋、循環器、腎・泌尿器、呼吸器、代謝、消化器・嚥下、内分泌、情報通信技術の9分野毎に試験（それぞれ100点）を行う。試験において60点未満は再試験を受験することができる。 ※9分野の平均得点および課題の得点の合計が、総得点の60%以上を単位認定とする。</p>						
教科書	<p>適宜、資料を配布する。 森本尚之・奥村晴彦（著）『基礎からわかる情報リテラシー コンピューター・インターネットと付き合う基礎知識 改訂第5版』（技術評論社）</p>						
参考書	<p>国試の達人 運動解剖生理学編（株）アイベック 国試の達人 臨床医学編（株）アイベック</p>						
実務経験に関する記述							